

< 共通論題 >

オルタナティブデータの未来：可能性と課題

座長：藤原 賢哉（神戸大学）

共通論題趣旨

近年、デジタル化の進展に伴って、従来の官庁等が作成する経済統計等とは異なり、民間等が収集作成する「オルタナティブデータ」に注目が集まっている。特に新型コロナウイルス感染流行以降は、内外において、携帯電話等の位置情報、消費者の購買データ、SNS データ、企業開示データ、人工衛星データ等を活用した新しい事業や調査・研究が急速に広がりつつある。しかし、その一方で、オルタナティブデータの利活用に関しては、既存データとの関係性（補完・代替）、プライバシー保護や匿名化、人材育成のあり方など、様々な課題が指摘されている。

本共通論題では、この分野の代表的な実務家および研究者を招き、主にマクロ経済政策領域におけるオルタナティブデータの活用可能性（活用事例含む）と課題解決に向けた方策）について議論することにした。